

夢や志をもち挑戦する児童生徒の育成を目指して

地域の
特色ある
活動

1 はじめに

青森市は、本州と北海道を繋ぐ要衝に位置し、北東北における交通・政治・文化・経済の拠点として発展してきました。また、八甲田連峰や陸奥湾など美しい自然に囲まれ、りんごやカシス、ホタテ、八甲田牛といった豊かな食材にも恵まれているほか、「青森ねぶた祭」や世界遺産「三内丸山遺跡」「小牧野遺跡」、さらには棟方志功画伯に代表される版画や津軽三味線など、特色ある文化を有する魅力的なまちです。本市においては、これらの教育資源を生かした「人づくり」を目指し、教育課題の解決に向けて各種施策に取り組んでいます。

2 ICTによる学びのイノベーション

本市では、GIGA スクール構想の実現に向け、令和2年度から「あおり ICT 活用コンテスト」を開催しております。コンテストの入賞作品の選考は、青森市 ICT イノベーションチーム（教職員への個別サポート等、本市教員の ICT 活用指導力向上を支援する教員と指導主事で構成）が行い、優れた事例や実践例は、教職員用 HP 等で共有し、授業改善や業務軽減をはじめ教職員の ICT 活用能力向上につなげています。また、AI 型ドリル教材についても、各校の実態に応じたものが全小・中学校で採用されており、学習履歴を踏まえた補充的・発展的な学習に活用されています。そのほか、不登校児童生徒への支援においても、遠隔授業や AI 型ドリル教

青森県青森市教育委員会

材など ICT を活用し、一人一人に寄り添った学習支援を行っています。その結果、令和4年度不登校児童生徒のうち、登校できるようになった児童生徒は、69.3 パーセントとなりました。

3 小・中学生のボランティアの日の設定

本市では児童生徒のウェルビーイングの充実に向け、ボランティア教育を推進しています。今年度は、令和5年11月15日を「あおりボランティア DAY」に設定し、全小・中学校で創意工夫を凝らしたさまざまなボランティア活動を行いました。また、令和6年1月9日には、その取組を称賛する場として「あおり夢・志・挑戦アワード」を開催し、熱心にボランティア活動をした学校と個人の表彰の他、児童生徒による実践例のプレゼンテーションを行いました。活動を通して身に付けた利他性、協調性は、人との繋がり、地域との繋がり、関係性に基づくウェルビーイングの向上に資する活動であり、今後一層の充実を図っていきます。

4 名誉市民 棟方志功画伯を活用した版画教育

本市は世界的板画家（ばんがが）の棟方志功の出身地であることから版画教育に力を入れており、版画制作を通し、子供たちの創造性を図ることを目的とした棟方志功賞版画展を毎年度開催しており、36回目となる今年度は2,197点の応募がありました。



第36回棟方志功賞版画展 棟方志功賞受賞作品

また、昨年9月には「棟方志功生誕120年記念 棟方志功サミット in 青森」を開催し、画伯ゆかりの5都市の首長によるパネルディスカッションや画伯の母校である長島小学校児童による発表などを行いました。

5 ふるさと産品給食と学校給食費の全額公費負担について

本市では、6月と11月の食育月間に「ふるさと産品給食の日」を設け、りんご、カシス、ほたて、八甲田牛などの市・県産品を学校給食に取り入れているほか、家庭と連携した食育推進を図るため、栄養士作成の「給食だより」等を毎月御家庭に配付し、栄養バランスや朝食の大切さをはじめ「塩分控えめ」「野菜たっぷり」といったコンセプトからなる「あおもり型」給食レシピ等について情報提供を行っています。また、保護者負担の軽減を図るため、令和4年10月から小・中学校の学校給食を全額公費負担で提供しており、通年ベースで実施するのは中核市初となります。

6 世界遺産「小牧野遺跡」の環状列石とその活用

青森市内には、直径55mを誇る国内最大級の環状列石を特色とする小牧野遺跡（約4,000年前）があり、令和3年7月に市内の三内丸山遺跡とともに「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産としてユネスコの世界遺産に登録されました。小牧野遺跡の環状列石は、斜面を削り取るなどの土地造成や多量の河原石の運搬が行われ、平らな石を縦横交互に繰り返して並べられています。立体的に



小牧野遺跡の環状列石

つくられた環状列石は、さながら芸術的な円形劇場を思わせます。本市では、子供たちが世界遺産としての価値を理解できるよう、土器やアクセサリーを製作するなどの体験イベント、親子で縄文遺跡群を巡るバスツアーなどを実施しています。

7 おわりに

新型コロナウイルス感染症が第五類となり、感染対策を講じながらも体験的な学習活動が可能になりました。人との触れ合いを通して得る学びは、児童生徒の成長のための大きな源となります。今後は、小中一貫教育、コミュニティ・スクールのシステムを生かしながら、教職員・保護者・地域の方々が一体となった開かれた教育活動が一層充実したものとなるよう、取り組んでまいります。



教育長
工藤 裕司